

具体的な項目の提案等について (経過報告(案))

- 委員からの意見及びこれまでの議論をもとに事務局において整理
- 検討していただきたい事項

1. 医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価について

(1)透明化の評価	委員からの意見等
ア. 部位不明・詳細不明コードの発生頻度による評価	<p>○医療機関に対するヒアリングの中で、データが不適切であった事例が見られている。しかし、そのような特殊な事例をもってルールを作成した場合に、適切に実施している医療機関へ弊害が生じ得ることも考慮する必要がある。</p> <p>○正確なデータ提出のために医療機関はかなりのコストをかけているので、DPC対象病院として正確なデータを提出していること自体の評価を検討すべき。</p>
(2)効率化の評価	
ア. 効率性指数による評価	<p>○病院の総合的な能力及び効率性を評価できる。</p> <p>○患者が早期転院又は退院した場合には、効率性が高まるが、患者のアウトカム評価と併せて検証が必要である。</p> <p>○平均在院日数は、地域性による疾病構造の違いや後方医療施設の有無等の影響を受けることから、評価は慎重にするべき。</p> <p>○地方では交通機関の悪さや後方病院が無いなど、都会の視点だけで評価するべきではない。</p>
イ. 後発医薬品の使用状況による評価	<p>○特定機能病院等で後発医薬品の使用が普及していないことを考えると、DPCで評価すべき。</p> <p>○DPCでは薬剤費は包括されるので、制度の趣旨からすると後発医薬品の使用が促進されるはずであり、これを評価すれば2重評価となる。</p>

(3)標準化の評価	
ア. 手術症例数又は手術症例割合に応じた評価	<p>○標準的・効率的な医療を評価できる。</p> <p>○症例数が少なくても標準的・効率的な医療を提供している場合の評価についてはどのように考えるのか不明である。</p> <p>○症例数とアウトカムの関係についての検証が必要である。</p> <p>○評価することにより、不必要な医療(手術)を助長する恐れがある。</p> <p>○手術症例数の割合で評価する場合、医療の質が高まるというエビデンスがあるものだけを評価すべき。</p> <p>○疾患によって内科的治療と外科的治療のどちらが有効かという評価が定まっていない場合もあり、手術で評価した場合に、医療内容に過度の変容を来す恐れがある。</p> <p>○症例数で評価すると、症例数が少ない地域では評価されにくい。</p> <p>○医療の質の観点からは、病院全体の手術症例数ではなく、医師が経験した症例数の方が重要である。</p>
イ. 診療ガイドラインに沿った診療の割合による評価	<p>○治療効果等の裏付けのある標準的治療の促進が期待される。</p> <p>○診療ガイドラインと異なる診療であっても、一概に不適切であるとは言えないが、少なくとも診療ガイドラインを利用できる環境にあることなど何らかの評価があっても良い。</p> <p>○評価の対象とすべき質が担保された診療ガイドラインを特定することが困難である。また、診療ガイドラインでも患者の病態に応じた治療を行うことが前提であることから、単に診療ガイドラインの適用割合で評価することは、必ずしも質の高い医療を反映しない。</p> <p>○診療ガイドラインに当てはまらない高度な医療を実施した場合に、評価されない恐れがある。</p>
ウ. 標準レジメンによるがん化学療法の割合による評価	<p>○治療効果等のエビデンスのある標準的治療の促進が期待される。</p> <p>○標準化を進めるという点では大変重要であるが、既に一定の標準化が進んでいる医療機関において、まだ標準レジメンとはなっていない高度な医療を実施した場合に評価されない。</p>

(4) 医療の質の評価	
ア. 術後合併症の発生頻度による評価	<p>●術後合併症の発生頻度を評価することによって、医療の質が向上するかについてどのように考えるのか？</p> <p>○高度な医療を実施した場合には、合併症が増える確率が高い。評価を導入することにより、合併症を避けるためにあえて積極的な治療を実施しないことになりかねない。</p>
イ. 重症度・看護必要度による改善率	<p>○効果的な治療・ケアの評価が可能である。</p> <p>○看護必要度は毎日測定するものであり、1入院単位での評価方法が確立していない。</p>
ウ. 医療安全と合併症予防の評価	<p>○医療の安全に対する取組みや合併症の予防が進み、医療の質の向上が図られる。</p> <p>○既に診療報酬の中で評価している加算との整合性が問題となる。</p> <p>○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき。</p>
エ. 退院支援及び再入院の予防の評価	<p>○在宅復帰率等を指標とすることで、質の高い医療を評価できる。</p> <p>●既に診療報酬の中で評価している項目との整合性及び2重評価の可能性についてどのように考えるのか？</p> <p>●DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項かどうかについてどのように考えるのか？</p>

2. 社会的に求められている機能・役割の評価について

(1) 特殊な疾病等に係る医療の評価	
ア. 複雑性指数による評価	<p>○病院の総合的な能力及び効率性を評価できる。</p> <p>○患者が早期転院又は退院した場合には、効率性が高まるが、患者のアウトカム評価と合わせて検証が必要。</p> <p>○この指数は平均在院日数が相対的に長いことに影響されるため、点数の高い診断群分類を多く算定している方が直接的に高度な医療を評価できる。</p>
イ. 副傷病による評価	<p>○重症の患者を多く受け入れている医療機関をより評価できる。</p> <p>○診断群分類の分岐を行うことにより、既に副傷病に応じて評価している。</p> <p>○副傷病の重症度に応じた重み付けの方法論が確立しているのか不明である。</p> <p>○副傷病に応じた重症度の重み付けをどのように行うのか、評価が複雑になる恐れがある。</p>
ウ. 診断群分類のカバー率による評価	<p>○診断群分類のカバー率によって、病院機能を評価できるか検証が必要である。</p> <p>●専門病院は評価されにくいことについてどのように考えるのか？</p>
エ. 希少性指数による評価(難病や特殊な疾患等への対応状況の評価)	<p>○難病や特殊な疾患等に対応できる専門的医療が行われていることを評価できる。</p> <p>○いわゆる専門病院が評価されにくい。</p> <p>○難病や特殊な疾患が必ずしも高度な医療を必要とするものではない。</p> <p>○既に診断群分類の中で評価されおり、改めて評価の必要はない。</p> <p>○神経難病等に対応するにはスタッフの確保や医療施設の整備が必要であり、診療にコストがかかることから、希少性に注目するには意味がある。</p>

(2)高度な機能による評価	
ア. 高度な設備による評価	<p>○高度な設備を有し、高度な医療を提供している病院を評価できる。</p> <p>○病院が過剰な設備投資を行うインセンティブとなる可能性がある。</p>
イ. 特定機能病院または大学病院の評価	<p>○特定機能病院は医療法で定める承認条件を満たしており、地域の最終的な病院として機能していることから、特定機能病院を一律に評価すべき。</p> <p>○特定機能病院の中でも調整係数に差があり、医療内容や地域での役割も多様であると考えられるため、一律に評価すべきではない。</p> <p>○研究や教育に係る財源は、保険財源ではなく別途の財源で対応すべき。</p>
ウ. がん、治験、災害等の拠点病院の評価	<p>●病院の機能に応じた評価を行うことについてどのように考えるのか？</p> <p>●他の診療報酬の項目や補助金等と、2重評価となる可能性があることについてどのように考えるのか？</p>
エ. 高度医療指数(診断群分類点数上位10%の算定割合)	<p>○高度な医療を提供している医療機関を評価できる。</p> <p>●診断群分類点数が高い割合をもって、高度な医療の評価となるのかについてどのように考えるのか？</p>

3. 地域医療への貢献の評価について

<p>(1) 地域での役割の評価</p> <p>ア. 医療計画で定める事業について、地域での実施状況による評価</p>	<p>○地域医療への貢献度を評価することができる。</p> <p>○医療計画に定める事業のうち、どの分野をどの様な指標で評価できるのか検討が必要である。</p> <p>○医療圏におけるシェアで評価する場合、医療圏やシェアの定義をどのようにすべきか検討が必要である。また、医療圏によっては症例数が少なくとも高い評価を得ることとなることについて、検討が必要である。</p> <p>○医療機能は、一つの医療機関だけで完結するものではないため、医療機関間の連携状況についても勘案すべき。</p> <p>○地域の実情に応じた評価を希望する医療機関は多く、そういった評価もあり得る。</p> <p>○地域での役割を評価するためには、症例数だけではなく、地域内のシェア等を総合的に評価することも考えるべき。</p> <p>○地域単位での貢献度は、その地域内で判断すべき事項であり、全国一律の診療報酬体系で評価することは困難である。</p>
<p>イ. 救急・小児救急医療の実施状況による評価</p>	<p>○地域医療への貢献度を評価することができる。</p> <p>○重症度、受入率(受入要請数に対する受入数)、診療科に応じた評価も検討する必要がある。</p> <p>○単に受け入れた救急患者に対して評価することとは異なり、常に受入要請に対応できる病院機能(救急応需機能)を評価することができる。</p> <p>○同一疾患でも、救急入院では、予定入院(検査は外来で実施可能)と異なり、確定診断等を目的として入院初期に検査等を多く必要とし、DPCでは不採算となりやすいことも考慮すべき。</p> <p>○「救急」の定義が難しく、DPC対象病院以外の病院と公平性を図る必要がある。</p> <p>○既に出来高で評価されている項目と、2重評価となる可能性がある。</p>

<p>ウ. 救急医療における患者の選択機能の評価</p>	<p>○トリアージ体制等を評価することで、患者に適切な医療を提供されることを評価できる。</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p> <p>●DPC対象病院だけでなく、全ての病院で評価すべき事項かどうかについてどのように考えるのか？</p>
<p>エ. 産科医療の実施状況の評価</p>	<p>○産科医療の不足が社会問題となっており、産科医療を積極的に提供している病院を評価すべき。</p> <p>●DPC対象病院だけでなく、全ての病院で評価すべき事項かどうかについてどのように考えるのか？</p>
<p>オ. 地域医療支援病院の評価 カ. 地域中核病院の評価</p>	<p>●病院の機能に応じた評価を行うことについてどのように考えるのか？</p> <p>●他の診療報酬の項目や補助金等と、2重評価となる可能性があることについてどのように考えるのか？</p>
<p>キ. 小児科・産科・精神科の重症患者の受け入れ体制の評価</p>	<p>○地域医療への貢献度を評価することができる。</p> <p>○重症度、受入率(受入要請数に対する受入数)、診療科に応じた評価も検討する必要がある。</p> <p>○社会的に必要な医療として、評価すべき。</p> <p>○精神疾患を合併し、急性期医療を必要とする患者は増加傾向にあり、その様な医療に対応することは社会的に必要である。</p> <p>●既に出来高で評価されている項目と、2重評価となる可能性についてどのように考えるのか？</p>
<p>ク. 全診療科の医師が日・当直体制をとっていることの評価</p>	<p>○患者の有無に関わらず、常に受け入れ体制を整備していることを評価すべき。</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>

4. その他

(1)医療提供体制による評価		
	ア. 医師、看護師、薬剤師等の人員配置による評価	<p>○手厚い人員配置を行うことで、短い入院期間で提供される密度の高い医療を評価することができる。</p> <p>○コメディカルを評価することでチーム医療の評価につながる。</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
(2)望ましい5基準に係る評価		
	ア. ICU入院患者の重症度による評価	●患者の重症度や医療機関の体制に応じた評価ができることについてどのように考えるのか？
	イ. 全身麻酔を実施した患者の割合による評価	○連続的評価が可能か検討が必要である。
	ウ. 病理医の数による評価	●既に出来高で評価されている項目であることから、2重評価とならないように留意すべき。
	エ. 術中迅速病理組織標本作製の算定割合による評価	
(3)その他		
	ア. 新規がん登録患者数	<p>●新規がん患者の診療に応じた評価ができることについてどのように考えるのか？</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
	イ. 高齢患者数の割合による看護ケアの評価	<p>○高齢患者に対するケアを評価することができる。</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
	ウ. 入院患者への精神科診療の対応の評価	<p>○精神科診療の対応を評価することができる。</p> <p>●精神科による診療は、例えば精神疾患と身体疾患の治療計画について既に出来高(例:A230-2精神科身体合併症管理加算)で評価されており、2重評価となる可能性についてどのように考えるのか？</p>

エ. チーム医療の評価

○病院の医療提供体制を評価することができる。

●DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項かどうかについてどのように考えるのか？

●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？

5. 医療機関との意見交換について

(1)財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 院長 美原 盤 氏	
ア. 急性期医療の提供体制に対する評価	<p>○放射線技師 検査技師 薬剤師 専門診療科医師の24時間体制の確立を評価することで、急性期医療の質の確保につながる迅速な対応を評価できる。</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
イ. チーム医療の実践に対する評価	<p>○病床規模に比した一定数以上のコメディカル スタッフ(薬剤師 リハビリ 栄養士 MSW)の配置を評価することで、効率化や医療密度の充足、直接看護時間の増加等の医療の質の向上が期待できる。</p> <p>●DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項かどうかについてどのように考えるのか？</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
ウ. アウトカムを伴う効率化に対する評価	<p>○平均在院日数が一定日数以下で、併せて再入院率および再転棟率が一定割合以下であることを評価することで、治療効果を担保しながら効率化を評価できる。</p> <p>●例えば、評価することによって再入院を受け入れないなど、過度な医療変容を来す可能性についてどのように考えるのか？</p>
エ. 救急医療への対応実績に対する評価	<p>○救急車による搬送の受け入れ実績及び一定割合以上の緊急入院の率を評価し、個別症例のみではなく、病院としての救急医療への取組みを評価できる。</p>
オ. 政策的医療への対応実績に対する評価	<p>○医療計画(4疾病及び5事業)への対応又は医療連携の度合い(地域連携パス・紹介率および逆紹介率)を評価すべき。</p> <p>●例えば、地域連携の度合いなど、現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である事項も含まれていることについてどのように考えるのか？</p>

(2)長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院 診療部長 西澤 延宏 氏

ア. 患者の年齢構成による評価	<p>○都会に比べて、地方では高齢者が多く、コストが掛かる医療が行われている。また、データには現れないが、看護必要度が高齢者で高くなることから、年齢に応じて評価すべき。</p> <p>○高齢者をどのように定義するべきか、単純に年齢だけで評価してよいのか議論が必要である。</p>
イ. 地方の診療所や中小病院へ医師を派遣することに対する評価	<p>○地域医療を守るために、近隣医療機関へ医師を派遣していることを評価すべき。</p> <p>●当該医療機関の入院医療と直接は関係がなく、機能評価係数として評価が可能かどうかについてどのように考えるのか？</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>
ウ. 在宅医療への評価	<p>○地方では必要にせまられて病院で在宅医療を担う必要があり、在宅医療への取組みを更に評価すべき。</p> <p>●当該医療機関の入院医療と直接は関係がなく、機能評価係数として評価が可能かどうかについてどのように考えるのか？</p> <p>●現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難であることについてどのように考えるのか？</p>